

Title	メタフシカ 第32号 彙報/編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	メタフシカ. 32 p.143-p.144
Issue Date	2001-12-25
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/66656">https://hdl.handle.net/11094/66656</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 【梟報】

### ●哲学哲学史

現在、専門分野・哲学哲学史には、大学院生として博士前期課程十一名、博士後期課程六名、および学部生（哲学・思想文化学専修）として二年生七名、三年生十名、四年生十二名の計四十六名が在籍しており、里見軍之、山形頼洋、入江幸男、吉永和加の各教官が、専門分野・文化基礎学および現代思想文化学、また臨床哲学の各教官と連携しつつ、教育・研究指導にあたっている。

本年度の講義・演習は、「Gadamer『Wahrheit und Methode』I、II」「現象学の根本問題」（里見教授）、「十七世紀西洋哲学研究」「西田哲学研究」（山形教授）、「問答の意味論（一）」（Kant: *Kritik der reinen Vernunft*）（入江助教授）という題目で行われている。また、その他に「現代思想文化学の教官・院生と合同で、修士論文や博士論文の作成演習が定期的に開かれ、活発な発表、討論がなされている。

非常勤講師としては、伊豆蔵好美先生（奈良教育大学）、鹿野忠良先生（本学理学部）、坂下浩司先生（名古屋工業大学）をお招きし、先生方にはそれぞれ、「ホッブズと十七世紀哲学の諸問題II」（伊豆蔵先生）、「認識論講義—文科と理科に橋は架かるか—」（鹿野先生）、「古代哲学史」（坂下先生）という題目で講義をして頂いている。十月二十二日には、里見軍之教授の招きにより、Kan King Cho教授（ニューヨーク州立大学）の講演会が開かれ、盛況であった。（吉永）

### ●現代思想文化学

大学院文学研究科・専門分野・現代思想文化学には現在、博士後期課程に七名、博士前期課程に六名の大学院生が所属しており、そのうち一名は留学生である。なお、研究・指導にあたる教官は、浅野遼二教授と溝口宏平教授、望月太郎助教授、そして佐々木正寿助手である。当専門分野において今年度開講されている講義・演習の主要なものには、「現代思想文化学演習」（M・ハイデガー「存在と時間」の研究I・II、溝口教授）、「現代思想文化学講義」（美の形而上学研究・生の形而上学研究、浅野教授）、「環境思想論講義」（環境思想の諸問題、溝口教授）、「生命思想論講義」（生命の哲学）研究、浅野教授、「現代思想文化形成史講義」（十九世紀フランス思想研究、望月助教授）、「現代思想文化形成史演習」（十八世紀フランス思想研究、望月助教授）があり、またその他に修士論文・博士論文作成演習が行われている。

非常勤講師には、横山輝雄先生（南山大学）をお招きし、「近代科学の成立と展開」の題目の下に集中講義をお願いしている。また、十月九日には、来日中のオリヴィエ・ブロック名誉教授（パリ第一大学）をお招きして講演会を開催し、「La tradition libérale et claudes de l'âge classique et le matérialisme（古典主義時代における自由思想と地下文書の伝統と唯物論）」の題目の下に講演していただいた。なお、当専門分野では、二〇〇一年三月に本田敏雄氏（神戸市立工業高等専門学校教授）が課程博士論文「フィヒテ論攷—フィヒテ知識学の歴史的原理的展開—」により、また二〇〇〇年三月には佐々木正寿助手が同論文「有限性の解釈学—前期ハイデガーの哲学と気分の問題—」により、博士（文学）の学位を取得した。（佐々木）

### ●臨床哲学

専門分野・臨床哲学には本年度、博士前期課程に六名、同後期課程に一〇名在籍しており、鷺田清一、中岡成文、本間直樹の各教官のもとで個別研究を行うほか、学内外のさまざまな活動のプラン作りや実践に取り組んでいる。このような臨床哲学の活動については、臨床哲学論考集『臨床哲学』第三号、および季刊『臨床哲学のメチエ』八号（特集：教室のなかの／そとへの哲学）、九号（特集：対話は終わらない）を通じて公開されている。また上記機関誌を含め本専門分野の研究ならびに社会活動については、ホームページ（<http://bun70.let.osaka-u.ac.jp/index.htm>）でも読むことができる。

今年度開講されている講義・演習は、次の通りである。（文学部倫理学専修対象のものも含む）「伝えるということ（1）（2）」（臨床哲学研究（1）（2））（鷺田教授、中岡教授、本間講師）、「ひとは何を欲求するか（1）（2）」（西洋倫理思想史概説（学部生対象））（中岡教授）、「感覚論」「マツハの感覚論を読む」「邦語哲学・思想文献講読演習」（鷺田教授、進化和倫理I、II）「現代倫理思想の諸問題I、II」「コミュニケーションの技法と実践」「倫理学概論（学部生対象）」「倫理学の研究方法（学部生対象）」（本間講師）、「応用倫理学の文献を読む」（品川哲彦非常勤講師）、「ヘーゲル哲学体系の基本概念」「生命操作の倫理的課題」（霜田求非常勤講師）。（本間）

【編集後記】

『メタフュシカ』第三十二号（通算）をお届けいたします。我が国の大  
学における哲学教育・研究の現場を取り巻く情勢は、いわゆる「大学の  
構造改革」の影響下、しだいに厳しさを増しつつあります。本誌が、評  
価に耐え得ると同時に、単なる点数稼ぎではない、内容の充実した論考  
の発表の場でありつづけることを願います。読者の皆様の忌憚のない、  
ご意見、ご批判をお寄せ下さい。

（望月）

【編集委員会】

『メタフュシカ』第三十二号編集委員

委員長 里見 軍之（哲学 哲学史・教授）

望月 太郎（現代思想文化学・助教授）

本間 直樹（臨 床 哲 学・講師）

補佐 吉永 和加（哲学 哲学史・助手）

メタフュシカ 第三十二号

平成十三年十二月二十日 印刷

平成十三年十二月二十五日 発行

編集兼  
発行者

大阪大学大学院文学研究科哲学講座  
〒565-0873 豊中市待兼山町一―五

印刷所

有限会社 真 陽 社  
〒600-8475 京都市下京区油小路仏光寺上ル